

第 16 回「学びながらのウォーキング」大会

と き 平成 29 年 11 月 23 日 (木・祝)

ところ 講演会：秋吉台国際芸術村

ウォーキング：秋吉台

〔報告：山口県医師国民健康保険組合常務理事 沖中 芳彦〕

今年も、11月23日(木・祝)に山口県医師国保組合の保健事業「学びながらのウォーキング」大会を開催した。

昨年のウォーキングコースは山口市の市街地～山道のコースであったが、今年は秋吉台であった。

さて、例年と同じく、山口市(総合保健会館)に集合する方々、及び秋吉台国際芸術村に直接集合する方々の2か所に集合場所を設置し、山口市集合者は大型バスで目的地に向かった。

大会開始にあたり、河村康明 理事長による主催者挨拶の後、秋吉台科学博物館の藤川将之 氏に「秋吉台を楽しもう!」と題してご講演をいただいた。地質学の専門家として、カルスト台地・鍾乳洞の魅力を伝えていただいた。

なお、秋芳洞は多くの方から「しゅうほうどう」と呼ばれているが、正しくは「あきよしどう」であり、市町村合併により秋芳町しゅうほうちやうができたことなどが間違いを引き起こす原因となったらしい。また、昔ここは海であったが、プレート・テクトニクスにより陸地になった、というお話に皆驚かれていた。

さて、講演会終了後、ウォーキング指導者として、健康運動指導の経歴を持つ恵美須勝美さんから、ウォーキングの効用・注意事項のご説明をいただき、一同、バスに乗って、秋吉台の長者ヶ森駐車場へ移動した。入念な準備体操を行ってウォーキングスタート。

向かう場所は、約1.3km先の長者ヶ森展望台。ここは、カルスト台地を横切る一本道

(カルストロード)からは車で乗り入れることができない場所にある。秋吉台から一旦離れ、美東町経由で大回りすれば車でも行けるが、その道はあまり知られておらず、穴場的なところではあるが、展望台もあり、より広く大地を見渡すことができる。しかしながら、それだけ風は強く、当初の予定通り同所での昼食となったものの、当日は冷たい強風に吹かれ、凍えながらの食事となって



しまった。

例年は、ぽかぽかと暖かい太陽の下で昼食をとって一息ついていたところだが、今回は予定を繰り上げ、食後すぐに午後のウォーキングを開始した。

一旦冷えた体を温め直すかのように、長者ヶ森へと歩きだした。そこから左に大きく曲がり、最終地点の秋吉台カルスト展望台に向かった。

草原は、季節的に半分以上が枯れ草とはなっているが、一面に背の高いススキの穂が風で大きく揺れていた。夕日が差す頃に晴天であれば、きらきらと黄金色に輝いて見えるはずだ。

コースは緩やかなものの高低差が多くあり、ゴツゴツした石灰岩の白い岩肌が辺り一面に広がっている。前日の雨のせいで水たまりやぬかるみが出てはいたが、皆楽しそうにおしゃべりをしながら進んでいく。遊牧場、そして、若竹山のスロープを通り抜け、しばらくすると、最終地点の展望台が見えてきた。

約5kmを歩いたところで多くの観光客で賑わうカルスト展望台に到着し、ウォーキングは終了。

全参加者が到着するまで休憩し、全員がバスに乗り込んだことを確認して、山口市方面と秋吉台国際芸術村にそれぞれ向かい、解散となった。



前日は強い雨であったが、当日は晴れ時々曇りであり、ウォーキング開始前にはまずまずのイベント日和と思われた。明るく太陽が照らしているものの、雲の動きにより日陰になると、風がとても冷たく感じる一日ではあったが、秋吉台でこの距離をウォーキングする機会というのは、なかなか無いのではなかろうか。

カルストロードを車で一気に走れば爽快感はあるのだろうが、ウォーキング専用コースをゆっくりと自らの脚で歩くことで、違う角度で景観を楽しむこともできたので、参加者には楽しんでいただけたのではないかと思います。

